

SWSの観測では、数多くのFeやNi禁制線が観測され、またHIの再結合線による評価から、星間吸収が7 μ m付近で予想より大きくなるという報告もあった(Sturm)。また、中間赤外線源を拾い出すCAM parallel modeの説明があった(Siebenmorgen)。

・星間物質と星形成

このセッションの一つのトピックは、 ρ Oph, M17 (Boulanger, Verstraete), 銀河中心方向 (Mattila) など到着するところ UIR band が顕著で、しかも今まであまり見えていなかった12.7 μ m (trio C-H による) が強くはっきりと現われていることと、いわゆる小さい粒子 (small grain) によるコンティニュームの盛り上がりが見え明らかである。もう一つのトピックは、NGC7538 IRS9, GL2136 (Whittet), GL2591 (van Dishoeck) などの塵やガスに深くうずもれた天体に見られた各種の氷で、4.27 μ m と15.2 μ mのCO₂氷による吸収がはっきり観測されたのは初めてである

う。それぞれの組成の昇華温度が異なるのでこれらの吸収線は温度計の役割を果たす。特に、van DishoeckによるGL2591のSWSスペクトルは印象的であった。他に、暖かい星間領域 (Warm ISM) での[Ne II], [Si I], [Si II]の輝線やH₂の回転遷移輝線検出の報告 (Wright) やPHT観測による高銀緯雲 (high latitude clouds) 中のダストの温度決定の話(Laureijs), CAM LW2, LW3による低質量星の探査でChameleon雲にLW2で517個、LW3で160個検出したという報告 (Nordh) などがあつた。

全体的に発表はpreliminaryなものが多かつたが、それでもISOが赤外線天文学研究、特に、分光観測 (SWS, LWS)によって星間ガス、ダスト研究に新しいページを開きつつあるという印象を強く受けたワークショップであつた。

菅井 肇, 田辺俊彦 (東京大学),
奥田治之 (宇宙科学研究所)

月報だより

人事公募

標準書式: なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

名古屋大学太陽地球環境研究所教官

1. 教授又は助教授1名
2. (1) 太陽圏環境部門
3. 名古屋大学太陽地球環境研究所太陽圏環境部門では、太陽宇宙線・銀河宇宙線の加速機構と伝播の研究、太陽風の加速機構と伝播の研究を行っています。最近では、放射性炭素やナイトレートを使った長期に亘る太陽地球環境の変動の研究、飛翔体搭載用太陽中性子・ガンマ線観測用センサーの開発、他の天体で起こっている太陽圏環境の類似現象の研究を行っています。今回の公募では全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分に理解し、共同研究の遂行に積極的に取り

組んで下さると共に、上記複数個の研究テーマについて研究を進め得る方を希望しています。また、太陽圏環境部門は、大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻 (宇宙地球物理系) の協力講座です。大学院生の教育研究指導に熱心な方を希望します。

5. 平成9年4月1日(火)
7. 履歴書, 研究歴, 業績リスト, 主要論文別刷, 研究計画書及び自薦の場合は本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先を記入した書面, 他薦の場合は2人の方からの推薦書 (応募対象の職名を明記して下さい。)
8. 公募締切: 平成8年9月30日(月)
- 選考: 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同研究所運営協議会の意見を求めて、教授会において決定します。なお、適任者がいない場合は決定を保留します。
9. 〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 國分 征
電話: 05338-9-5182
FAX: 05338-9-5090
E-mail: kokubun@stelab.nagoya-u.ac.jp
- 当該部門の状況等についての問合せ:
〒464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学太陽地球環境研究所東山分室

太陽圏環境部門教授 村木 綏
 電話：052-789-4314
 FAX：052-789-4313
 E-mail：muraki@stelab.nagoya-u.ac.jp

電話：0272-23-1111 内線 4047
 FAX：0272-55-5293
 10. 封筒の表に「天文台職員応募書類在中」と朱書きして下さい。
 11. 平成10年度以降についても、職員募集を検討しています。

群馬県立 ぐんま天文台「観測普及研究員」

1. 県職員として若干名を募集します
2. (2) 天文台開設までは群馬県教育委員会事務局勤務とし、開設後は天文台勤務とします。(開設予定は平成10年度です.)
 群馬県教育委員会事務局 群馬県前橋市大渡町1-10-7 天文台 群馬県吾妻郡高山村大字中山地内
4. 開設までは、教育委員会事務局において、天文に関する普及活動や天文台運営体制の整備、観測機器の整備などの開設準備業務を行います。開設後は、天文台において教育普及活動と研究活動を行います。
5. 平成9年4月1日
6. ぐんま天文台は、研究と教育普及の両立を目標に、専門的な研究活動を行うとともに、子どもたちや県民に「本物に触れる感動」を提供する開かれた天文台を目指しています。情熱をもって研究活動を行い、積極的に普及活動に取り組む意欲のある職員を希望します。
 (1) 年齢：22歳以上(平成9年4月1日現在)。
 (2) 資格：① 大学または大学院で天文学若しくは関連分野を専攻した者。② これと同等の知識や技能を有する者。

7. (1) 履歴書、(2) 研究歴(研究内容の概略を含む)や教育活動歴及び特記すべき実績や事項、(3) 抱負(1000～2000字)「ぐんま天文台で行いたい研究活動、教育・普及活動」(4) 本人についての意見を述べられる方2名の氏名と連絡先

○受付期間及び天文台概要の配布
 受付期間：7月22日(月)～8月31日(土) 最終日必着のこと。

天文台概要配布開始：6月下旬(希望される方は、返信用切手190円を同封の上、お申し込み下さい。)

○選考方法

試験区分	試験内容	試験日時	合格発表	結果通知
第1次選考	書類	—	9月中旬	合格者に郵送で通知します
第2次選考	適性検査と面接	10月11日	10月中旬	全員に郵送で通知します

9. 〒371 群馬県前橋市大渡町1-10-7
 群馬県教育委員会事務局管理課
 天文台建設準備係 下田明英

平成9年度国立天文台
 外国人客員教授候補者の推薦について

下記により平成9年度国立天文台外国人客員教授候補者を募集しますので、ご推薦願います。

1. 国立天文台所属の受入れ責任者を通じての応募に限ります。
2. 公募分野は、以下の4部門です。
 (1) 光学赤外観測(光学赤外線天文学研究系)
 (2) 天体物理基礎理論(理論天文学研究系)
 (3) 電波天文観測(電波天文学研究系)
 (4) 地球力学(地球回転研究系)
3. 推薦される候補者がある場合は、受入れ責任者とご相談の上、所定の申請書を作成し、関連資料(略歴等・論文リスト)を添えて、9月4日(水)までに管理部庶務課共同利用係あてご提出下さい。申請書書式その他については、共同利用係にお問い合わせ下さい。(TEL.0422-34-3660) 国立天文台長 小平桂一

宇宙科学研究所教官

このたび、下記の要領により本研究所、次世代探査機研究センターの教官公募を行いますので、広く適任者の推薦、応募を求めます。本研究センターは、次世代の、科学衛星・探査機に必要な先端的な技術をプロジェクトに先行して確立することを目的としています。そのため、本研究所が、広く大学・他の研究機関・産業界と協調して、新しい技術を開発していくに当たって、中核となることを目指しています。

1. 助教授1名
2. (1) 次世代探査機研究センター
 (2) 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所
3. 飛翔体を使った宇宙放射線計測のための先端の観測センサーの開発。当面は赤外線・サブミリ波検出器の高機能化、高度化に専心していただける方。また、大学共同利用機関である本研究所の職務を理解し、共同利用諸計画の遂行に積極的な役割を果たしていただける方を希望する。
5. 決定後できるだけ早い着任
7. (1) 略歴、(2) 研究歴、(3) 論文リスト及び主要論文の別刷り、(4) 研究計画書(自薦の場合)(5) 他薦の場合、推薦書2通、自薦の場合は、本人について意見を述べられる2名の氏名と連絡先

8. 1996年9月30日(月)必着
9. (1) 〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙科学研究所 庶務課人事係
電話(代表)0427-51-3911
- (2) 同上研究所内
次世代探査機研究センター
センター長 中谷一郎
電話 0427-51-3911 内線 2416
FAX 0427-51-3988
10. 封筒の表に「次世代探査機研究センター助教授応募(推薦)書類在中」と朱で明記して下さい。選考は宇宙科学研究所運営協議員会において行います。応募者に適格者がいない場合には、決定を保留することがあります。

E-mail : itoh@center.wakayama-u.ac.jp
又は、教育学部庶務係
TEL : 0734-54-0361 内線 5103
FAX : 0734-54-8882

10. 書類提出は、封筒の表に「教官公募(天文学)関係書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送のこと。
11. (1) 面接を行うことがあります。
(2) 選考の結果はお知らせします。また、提出された書類は審査終了後お返しします。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(氏名)
3. 着任時期

和歌山大学教育学部教員

1. 助教授または講師1名
2. 理科教育(地学教室)
3. 天文学(特に分野は問わないが、大学に設置されている60cm望遠鏡の維持・管理ができ、かつこれを使った卒業論文や修士論文の指導のできる方)
4. 天文学、地学に関する学部・大学院の専門科目、教職専門科目および教養科目
5. (1) 平成9年4月1日
6. (1) 博士の学位を有する者、またはこれと同等の研究・教育上の業績を有する者
(2) 採用時満37歳以下
(3) 心身ともに健康な方
7. (1) 履歴書(用紙は市販のもの、またはそれに類するもの)
(2) 研究業績リスト(書式は問わない)。掲載予定のものについては、掲載決定通知コピーを添付して下さい。
(3) 著者および主要論文別刷(5点程度以下、コピーも可)
(4) 研究歴(これまでの研究内容の概要、理論系の方は観測との関わり)と今後の研究計画。1000字程度、形式は任意。
(5) 就任後の教育に対する抱負。400字程度、形式は任意。
(6) (可能ならば)推薦状
(7) 本人の業績についての照会先の氏名とその連絡先
8. 平成8年8月31日(土)(消印有効)
9. (1) 〒640 和歌山市栄谷930
和歌山大学教育学部長 宛
(2) 〒640 和歌山市栄谷930
和歌山大学教育学部地学教室 伊藤久徳
TEL : 0734-54-0361 内線 5371

宇宙科学研究所宇宙圏研究系高エネルギー天体物理学第二部門助手

1. 第88巻11号
2. 上田佳宏
3. 1996年4月1日着任

東京都立大学理学部物理学教室教員

1. 第88巻12号
2. 石崎欣尚
3. 1996年7月1日着任

京都大学大学院

理学研究科宇宙物理学教室助教授

1. 第88巻12号
2. 嶺重 慎
3. 1996年5月16日着任

研究会・集会案内

第10回天文教育研究会

- 主 催 : 天文教育普及研究会
日 時 : 1996年7月31日(水)～8月3日(土)
場 所 : 新潟県妙高高原町池の平温泉
『かんぼの宿 妙高』(7/31～8/1)
新潟県中頸城郡妙高村
『国立少年自然の家』(8/1～8/3)
内 容 : 全国の小、中、高校の先生などの学校育関係者、

大学等の教官（研究者）、公共天文台や科学館などの社会教育関係者、天文機器のメーカーに勤める人、アマチュア天文愛好家など、天文にたずさわる様々な人が集まり、天文教育や天文普及に関する様々な研究報告、実践報告及び情報交換をはかるユニークな研究会です。

備考：参加申込は6月25日に締め切りましたが、関心のある方は、実行委員長の江口元一氏（TEL:0255-24-6223[自宅]）に直接問い合わせ下さい。

文責：愛知教育大学 沢 武文

木曾シュミット観測の新展開

—2KCCDとKONICによる新しい天文学

現在木曾観測所ではシュミット望遠鏡の新しい観測装置として、18分角の視野をもつ赤外線カメラKONICが今年4月から試験公開に入り、またUバンドまで感度が高く、50分角の広い視野を持つ2KCCDカメラが8月のファーストライトを目指して開発されております。これらの二つの装置は、共にこれまでにないユニークな性能を有し、その特性を生かす観測により天文学を大きく推進させるポテンシャルを秘めています。そこで両装置の本格的公開運用を前に、これらを用いてどのような天文学を行っていくか広く議論する研究会を設けます。木曾観測所の今後にとって大切な研究会です。多くの新しい研究課題が提案されることを期待しております。詳しくは下記世話人まで。

東京大学理学部天文学教育研究センター
木曾観測所所長 吉井 譲

日時：1996年9月18日(水)14:30～19日(木)15:30

場所：長野県木曾郡上松町ねざめホテル

申し込み：1996年8月20日(火)まで

世話人：長谷川 隆、市川 隆

〒397-01 長野県木曾郡三岳村 10762-30
電話：0264-52-3360 Fax: 0264-52-3361

第46回 科学講演会開催案内

主催：財団法人 東レ科学振興会

とき：平成8年10月9日(水)

開場：17時30分

開演：18時00分 終演：20時45分

ところ：有楽町朝日ホール

東京都千代田区有楽町 2-5-1

有楽町マリオン11階 (JR 有楽町駅前)

テーマ：“ポリマーサイエンスの新潮流”

I. 先端高分子材料の新展開

東京大学教授 西 敏夫

II. 高分子材料の分子設計

東京大学名誉教授 井上祥平
東京理科大学教授

その他：入場無料・予約なし・先着順（定員638名）
（ご来聴の方には、後日講演記録を進呈致します）

問合せ先：財団法人 東レ科学振興会

千葉県浦安市美浜一丁目8番1号（東レビル）
Tel 0473-50-6103 Fax 0473-50-6082

重力波検出に関する国際シンポジウム (TAMA ワークショップ)

開催期間：平成8年11月12日～11月14日（3日間）

開催場所：国立婦人教育会館

〒355-02 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL：0493 (62) 6711

主催者名：国立天文台、重力波新プロ総括班

詳細問合せ先：国立天文台 宇宙計量部門 鎌田桃子

〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

TEL：0422 (34) 3620

FAX：0422 (34) 3793

E-mail：tamaws@gravity.mtk.nao.ac.jp

会合の内容：日本の重力波研究者グループに加えて、この分野で世界の第一線の研究者を招待し、干渉計の光学設計、高出力、高安定レーザー、高性能ミラーの製作法と評価法、熱雑音、防振法、予測波形による信号処理法、など具体的な問題について集中的な議論と検討を行う。

参加費：無料

研究助成

平成8年度東レ科学技術賞・研究助成

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。応募用紙は日本天文学会までご請求下さい。

I. 東レ科学技術賞（概要）

1. 候補者の対象……貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの

(1) 学術上の業績が顕著なもの

(2) 学術上重要な発見をしたもの

(3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの

(4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの

2. 科学技術賞……1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円、2件前後。

3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内

II. 東レ科学技術研究助成（概要）

1. 候補者の対象……貴学協会に関する分野で、基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者。
 2. 研究助成……総額1億3千万円、10件程度。
 3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内。
- Ⅲ. 学会必着日（Ⅰ、Ⅱとも）……平成8年9月10日（火）

1996年度朝日賞候補者の推薦について

朝日新聞文化財団より標記の依頼がきております。
推薦票は天文学会にあります。

1. 候補者の対象
わが国のさまざまな分野で業績をあげ、文化・社会の向上に貢献された個人または団体。
2. 天文学会の締切は、1996年8月15日（木）必着
3. 発表は、1997年元日の朝日新聞紙上。

会務案内

日本天文学会早川幸男基金援助者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）内規に基づき*、海外学術研究に対して援助を希望する者を募集（1996年度第2期）致します。

1. 援助金総額 年間150万円
2. 援助件数 年間数件程度
3. 募集対象期間 1996年10月1日～12月31日の間に日本を出発するもの、また前回の応募時に間に合わず、すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類（A4紙に統一すること）、原本1部、コピー5部。但し(7)、(8)についてはコピー不要。
 - (1) 応募用カバーシート（第89巻5号237頁の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する）
 - (2) 論文リスト
 - (3) 観測については、観測割当通知および観測提案の写しか、それに準ずるもの
 - (4) 国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要
 - (5) 研究集会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの
 - (6) 大学院生の場合、研究指導者の意見書
 - (7) 航空運賃の見積書
 - (8) 関連研究論文の写し（一編）
5. 応募締切：1996年9月10日（火）必着
6. 決定時期：1996年9月下旬

7. 応募書類送付先：

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内
日本天文学会 早川基金募集係

- *早川基金内規（天文月報第85巻第12号参照）による援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として35歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費（滞在費を除く）の援助を受けない者。」です。
○1996年度はこの後、12月、3月の10日締め切りで募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

学術会議会員候補者 選挙日程

日本天文学会では、規定に基づき以下の日程で学術会議会員候補者の選挙を行います。国際的な競争の中での日本の天文学の発展に寄与すべく、立候補・推薦活動が盛んに行われ、会員の高い関心のもとに選挙活動と投票が行われることを期待します。

選挙日程の公表（本記事）1996年7月20日

（天文月報8月号誌上）

選挙公示のお知らせ 1996年9月20日

（天文月報10月号誌上）

選挙の公示 1996年10月15日

立候補・推薦受付期間 1996年10月15日～11月15日

……（選挙管理委員会まで必着のこと）

立候補者・被推薦者の公表 投票用紙送付時に、自薦書・他薦書を同封。ただし10月25日までに受け付けた分については、天文月報12月号誌上（11月20日発行）にて公表します。

投票期間 1996年12月4日（水）～

1997年1月8日（水）（選挙管理委員会まで必着のこと）。

ただし投票用紙の発送作業は12月3日に行います。

開票 1997年1月9日（木）

この選挙日程に伴い、投票有権者の確認のための名簿の修正は、秋季年会会場で受け付けます。郵送の場合は、11月15日までに天文学会事務室必着のこと。それまでに連絡のあった件を、投票用紙とともに発送される有権者名簿に反映します。

問い合わせ先

日本天文学会 選挙管理委員会（委員長 谷川清隆）

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内 日本天文学会事務室 気付

電話 0422-31-1359 ファックス 0422-31-5487

日本天文学会 1996 年春季年会記事

1996 年春季年会は 3 月 27 日(水)～29 日(金)の 3 日間、神戸大学の講義室の 5 会場を使って開催した。口頭 (10 分)、口頭 (3 分) + ポスター、ポスターによる発表講演数はそれぞれ 230, 120, 56 である。なおポストデッドラインペーパーは 2 件であった。各会場の座長には次の方々をお願いした。今回の参加者は 609 名と盛況で、中川氏を中心とする神戸大の方々のご努力で大変順調に行われたことをまず申し述べます。

座長は以下の方々をお願いした。

会場	A	B	C	D	E
1 日目					
午前	小島正宣	福島登志夫	加藤万里子	綾仁一哉	片坐宏一
午後 1	中島 弘	田辺健茲	中野武宣	川辺良平	吉田重臣
午後 2	常田佐久	橋本 修	大塚修一郎	市川 隆	西川 淳
2 日目					
午前	吉村宏和	松田卓也	観山正見	鶴 剛	大橋隆哉
午後 1	柴田一成	常深 博	佐藤文男	辻本拓司	蜂巢 泉
3 日目					
午前	小林秀行	伊藤真之	長田哲也	半田利弘	松本敏雄
午後 1	坂尾太郎	福江 純	森田耕一郎	田代 信	岡村定矩

〈記者会見〉秋季年会の前日 14 時から神戸大学瀧川記念会館で記者会見を行い、次の点について解説した。

トピックス

- 1) 重力波検出器開発でわかったニュートン重力定数の系統誤差
黒田和明 (東京大学宇宙線研究所), ほか
【関連講演: V41c, V40c, V03a】
- 2) 2 周波化野辺山電波ヘリオグラフによる 1995/11/10 のフレア観測
鷹野敏明 (国立天文台野辺山電波観測所), ほか
【関連講演: M18a, M12b, V13b, V14b, V15b】
- 3) マジェラン雲での赤外線星の発見
中田好一 (東京大学天文学教育研究センター), ほか
【関連講演: PDL2, N01a, N02a】

〈研究奨励賞受賞記念講演〉総会に先だって三好 真氏が VLBI によるブラックホールの発見に関する講演を行った。

〈通常総会〉2 日目午後 4 時 30 分から行われた。天体発見賞、天体発見功労賞の贈呈、研究奨励賞の贈呈について、平成 7 年度会務報告、会計報告が行われ承認され

た。さらに平成 8 年度予算案の報告につづいて、次期評議員が承認された。最後に長年の懸案であった定款の改定案が提案され、一部修正の上、可決された。総会出席者は 143 名であった。

〈天文教育フォーラム〉3 日目の午後 4 時から、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラム、『大学での天文教育、地学教員養成と小・中・高校の理科(天文)教育を考える』が開催された。加藤万里子氏、横尾武夫氏、半田 孝氏の報告のあと、多くの現状報告、意見交換が行われた。

〈懇親会〉2 日目の午後 6 時 45 分から瀧川記念会館 1 F ホールを利用して行われ、約 200 名の参加者があった。(株)五島プラネタリウム、(株)エイ・イー・エス、恒星社厚生閣からのご芳志もあり大変盛り上がったが、これも神戸大関係者のご努力の賜と敬意を表する。

〈公開講演会〉3 月 30 日(土)に神戸商工会議所ホールで行った。講師および演題は

「宇宙とフラクタル」

講演者: 神戸大学教授 伊東敬祐

「電波でみる惑星系の誕生」

講演者: 国立天文台助教授 林 正彦

であった。伊東氏の講演では現代数学の新しい概念であるフラクタルという視点で宇宙の構造を見るとどのように見えるのかを、林氏の講演では、少し前までは、とても観測で見えてくるとは考えられていなかった我々の太陽系以外の惑星系が実際に見えてきたことが感動的に話された。

総会報告

平成 8 年の通常総会は、3 月 28 日(木) 16 時 30 分より開催された。会員 143 名が出席した。

議長: 理事長 杉本大一郎

総会次第

1. 開会
2. 天体発見賞贈呈の件
3. 研究奨励賞贈呈の件
4. 平成 7 年度会務報告
5. 平成 7 年度会計報告
6. 平成 8 年度予算案
7. 次期評議員の承認
8. 定款の改訂
9. その他

●天体発見賞贈呈

評議員会の議決に基づき、以下の 4 件に天体発見賞・天体発見功労賞を贈呈する件が提案され、満場一致で承認された。

・天体発見賞 3 件 2 名

1. 山本 稔 [カシオペア座新星 (NOVA CAS-SIOPEIAE 1995) の発見]

2. 百武祐司 [百武第1彗星 (C/COMET 1995 Y1) の発見]

3. 百武祐司 [百武第2彗星 (C/COMET 1996 B2) の発見]

・天体発見功労賞1件3名

1. 中村裕二, 宇都宮章吾, 田中政明 [ハレー型の周期彗星, デ・ヴィコ彗星 (122P/DE VICO=P/1995 S1=P/1846 D1) を150年ぶりに検出]

引き続き表彰式が行われ, 理事長より表彰状・メダルが手渡された.

●研究奨励賞贈呈

評議員会の議決に基づき, 三好真氏に研究奨励賞を贈呈する件が提案され, 満場一致で承認された.

対象業績は, 「VLBI 観測による NGC4258 銀河中心核における巨大ブラックホール候補の発見における貢献」

引き続き表彰式が行われ, 理事長より表彰状・メダルが手渡された.

●平成7年度会務報告

庶務理事より平成7年度の会務報告があり, 原案通り承認された.

●平成7年度会計報告

会計理事より平成7年度の会計(仮)報告があった. 会計報告並びに会計監査報告は秋季年会時に臨時総会を開いて行う旨の説明があり, 原案通り承認された.

●平成8年度予算案

会計理事より平成8年度事業計画および予算案の説明があり, 原案通り承認された.

●次期評議員の承認

新評議員15名を承認した.

●定款の改訂

定款の改訂案が提案され, 以下のように修正の上, 賛成139, 反対1, 棄権3で可決された.

・第4条: 本会は天文学の進歩及び普及を目的とする.

・第37条: 通常総会は毎年2回春期および秋期に理事長が招集する.

・第42条: 総会は正会員現在数の5分の1以上の……

(以下略)

(文責: 庶務理事, 田中培生)

[付録1]

社団法人 日本天文学会

平成7年度会務報告

平成7年度は本会創立88年度, 社団法人設立後62年にあたる.

ア) 出版物の刊行

1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)

第47巻第2号~第6号, 第48巻第1号 (1995年4月から偶数月25日発行)

2) 天文月報

第88巻第4号から第89巻第3号まで (毎月発行)

3) 年会予稿集

1995年秋季年会, 1996年春季年会

イ) 年会の開催

1) 1995年秋季年会

◇ 記者会見: 10月4日(水) 新潟大学

◇ 年会: 10月5日(木)~7日(土) 新潟大学

参加者520名, 講演数401(口頭222, 口頭+ポスター124, ポスター55)

◇ 懇親会: 参加者約200名

◇ 天文教育フォーラム: 「エセ科学本, エセ科学テレビ番組と自然科学(天文)教育」

◇ 公開講演会: 10月8日(日) 新潟大学

「相対性理論は正しい—擬似科学との闘い」

(神戸大学: 松田卓也)

「太陽面爆発の謎に挑む—ようこうはフレアをどこまで解明したか」(国立天文台: 柴田一成)

2) 1996年春季年会

◇ 記者会見: 3月26日(火) 神戸大学

◇ 年会: 3月27日(水)~29日(金) 神戸大学

参加者609名, 講演数406(口頭230, 口頭+ポスター120, ポスター56)

◇ 懇親会: 参加者約200名

◇ 天文教育フォーラム: 「大学での天文教育, 地学教員養成と小・中・高校の理科(天文)教育を考える」

◇ 公開講演会: 3月30日(土)

神戸商工会議所ホール

「宇宙とフラクタル」(神戸大学: 伊東敬祐)

「電波でみる惑星系の誕生」

(国立天文台: 林 正彦)

ウ) 総会, 評議員会, および理事会の開催

1) 総会

1995年10月6日 新潟大学

議題: 定款改訂, 他

1996年3月28日 神戸大学

議題：天体発見賞，研究奨励賞，定款改訂，今年度決算，来年度予算，他

[付録2]

社団法人 日本天文学会

2) 評議員会

平成7年度 収支計算書

1995年5月13日 国立天文台三鷹

(平成7年4月1日～平成8年3月31日)

議長：海部宜男

【一般会計】収支計算の部

議題：決算報告，他

収入の部

(単位：円)

1995年10月6日 新潟大学

議長：奥田治之

議題：定款改訂，他

1996年3月9日 国立天文台三鷹

議長：小平桂一

議題：定款改訂，天体発見賞，研究奨励賞，内規，他

1996年3月28日 神戸大学

議長：松本敏雄

議題：天体発見賞，研究奨励賞，定款改定，他

3) 理事会

1995年8月26日 国立天文台三鷹

議題：定款改訂，臨時総会開催，他

1995年10月7日 新潟大学

議題：定款改訂，年会開催状況，次期年会，他

1996年2月17日 国立天文台三鷹

議題：定款改訂，来年度予算，他

1996年3月29日 神戸大学

議題：年会開催状況，次期年会，他

工) 委員会，ワーキンググループ，その他

1) 委員会関係

◇ 天体発見賞選考委員会：天体発見賞に山本稔，百武裕司氏を，天体発見功労賞に中村祐二，宇都宮章吾，田中正明氏を候補として推薦した。

◇ 内地留学奨学生選考委員会：野上長俊氏に決定した。

◇ 研究奨励賞選考委員会：三好真氏を候補として推薦した。

◇ 早川幸男基金選考委員会：計9名を決定した。

2) ワーキンググループ関係

◇ 定款WG：3月の総会に議案として提案する定款の改定案をまとめた。

◇ 顕彰WG：研究大賞，論文賞他を提案した。

◇ ネットワークWG：年会予稿のメール受付，学会のWWWなどを立ちあげた。

◇ 教育WG：天文学会としての初等・中等教育に対する基本的考え方をまとめた。

◇ ビデオ教材WG：ビデオ教材を企画，製作した。

3) 選挙

◇ 評議員選挙：新たに15名の評議員を選出した。

4) 会員数 (1996年3月31日現在)

特別会員 1223名，通常会員 1583名，賛助会 52名，計 2858名

(文責：庶務理事，田中培生)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	決算額
基本財産運用収入	130,000	115,000
基本財産利息収入	130,000	115,000
会費収入	32,000,000	32,630,250
特別会員会費収入	19,500,000	20,320,150
一般会費収入	14,500,000	15,545,650
学生会費収入	5,000,000	4,774,500
通常会員会費収入	12,500,000	12,310,100
事業費収入	26,350,000	26,449,218
欧文研究報告発行事業収入	13,600,000	14,566,940
購読料	5,000,000	4,955,925
掲載料	5,500,000	5,778,415
別刷料	3,100,000	3,832,600
天文月報発行事業収入	6,750,000	6,433,337
購読料	1,100,000	1,150,115
別刷代	250,000	568,440
広告料	5,400,000	4,714,782
年会事業収入	6,000,000	5,448,941
予稿集頒布収入	2,000,000	1,787,379
参加費	3,200,000	3,285,800
雑収入	800,000	375,762
印税収入	2,900,000	3,065,338
星座早見印税収入	1,900,000	1,940,000
その他の印税収入	1,000,000	1,125,338
補助金収入	7,100,000	6,520,000
文部省刊行補助金収入	4,300,000	4,120,000
公開講演会補助金収入	2,800,000	2,400,000
寄付金収入	450,000	1,513,694
寄付金収入	450,000	1,513,694
雑収入	1,073,000	2,058,809
受取利息	23,000	40,997
特別企画収入	550,000	806,886
その他の収入	500,000	1,210,926
繰入金収入	470,033	470,033
平成4年度分消費税繰入	470,033	470,033
積立預金取崩収入	0	1,728,943
退職給与積立預金取崩収入	0	1,728,943
当期収入合計 (A)	70,473,033	74,551,285
前期繰越収支差額	15,481,166	15,481,166
収入合計 (B)	85,954,199	90,032,451

支出の部

勘定科目 大・中・小科目	予算額	決算額
事業費	46,850,000	44,629,702
欧文研究報告発行事業費	20,800,000	20,923,951
直接出版費	13,440,000	13,802,857
別刷印刷費	950,000	1,255,396
人謝金	3,500,000	3,401,596
送料運搬費	1,100,000	882,750
消耗品費	1,450,000	1,452,837
雑費	350,000	123,660
	10,000	4,855
天文月報発行事業費	17,850,000	16,544,122
直接出版費	12,000,000	10,568,400
別刷印刷費	300,000	403,900
人謝金	1,000,000	592,643
送料運搬費	900,000	1,599,833
消耗品費	3,000,000	2,916,834
雑費	600,000	458,390
	50,000	4,122
年会事業費	7,900,000	6,861,629
予稿集印刷費	2,500,000	3,136,615
謝金	800,000	1,041,170
送料運搬費	1,300,000	794,961
会場費	900,000	313,349
消耗品費	1,300,000	960,104
雑費	1,100,000	615,430
IAU総会開催事業費	300,000	300,000
準備費	300,000	300,000
管理費	19,905,000	22,460,805
人件費	7,200,000	6,404,237
謝金	600,000	350,015
会議費	600,000	302,986
負担金	120,000	102,000
租税公課	1,200,000	1,227,212
旅費交通費	1,500,000	1,258,340
送料通信費	900,000	1,627,452
什器備品費	2,400,000	2,020,880
消耗品費	700,000	678,730
印刷製本費	1,200,000	1,526,700
光熱水料費	120,000	110,536
賃借料	1,120,000	1,142,148
保険料	95,000	74,904
諸手数料	250,000	192,760
書籍購入費	500,000	441,183
特別企画費	500,000	1,067,006
退職金	0	1,728,943
内地留学奨学金繰入金	150,000	150,000
雑費	750,000	2,054,773
特定預金支出	190,000	188,200
退職給与引当預金支出	190,000	188,200
予備費	19,009,199	0
予備費	19,009,199	0
当期支出合計 (C)	85,954,199	67,278,707
当期収支差額 (D = A - C)	△ 15,481,166	7,272,578
次期繰越収支差額 (E = B - C)	0	22,753,744

【特別会計】

収支計算の部

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	決算額
	収入の部		
学術交流費	賛助会員会費収入	2,100,000	2,100,000
	受取利息	2,500	2,500
	前期繰越収支差額	453,810	453,810
	収入合計	2,556,310	2,556,310
	支出の部		
学術交流費	学術交流費	2,000,000	1,723,000
	早川繰入金返済	0	500,000
	雑費	3,000	3,293
	支出合計	2,003,000	2,226,293
	次期繰越収支差額	553,310	330,017
	収入の部		
内地留学奨学金	基本財産利息収入	100,000	79,615
	一般会計より繰入	150,000	150,000
	前期繰越収支差額	32,384	32,384
	収入合計	282,384	261,999
	支出の部		
内地留学奨学金	奨学金支出	250,000	250,000
	雑費	1,600	721
	支出合計	251,600	250,721
	次期繰越収支差額	30,784	11,278
	収入の部		
研究奨励賞	奨励賞資金収入	200,000	272,000
	受取利息	2,500	10,939
	前期繰越収支差額	5,052,443	5,052,043
	収入合計	5,254,943	5,335,382
	支出の部		
研究奨励賞	奨励賞支出	100,000	100,000
	雑費	2,000	62,136
	支出合計	102,000	162,136
	次期繰越収支差額	5,152,943	5,173,246
	収入の部		
早川幸男基金	寄付金収入	100,000	2,540,000
	受取収入	10,000	214,287
	学術より繰入収入	0	500,000
	前期繰越収支差額	12,700,370	12,700,370
	収入合計	12,810,370	15,954,657
支出の部			
早川幸男基金	研究補助支出	1,500,000	1,150,000
	雑費	10,000	5,768
	支出合計	1,510,000	1,155,768
	次期繰越収支差額	11,300,370	14,798,889

社団法人 日本天文学会
 貸借対照表
 平成7年度(平成8年3月31日)

【一般会計】

(単位:円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
勘定科目 大科目・中科目	金額	勘定科目 大科目・中科目	金額
流動資産		流動負債	
現金預金	22,571,659	未収金	1,765,354
未収会費	3,012,105	預り金	1,721,795
未収金	2,373,696	前受金	923,754
仮払金	3,848,587	前受会費	9,441,400
有価証券	4,800,000	流動負債合計	13,852,303
流動資産合計	36,606,047	固定負債	
固定資産		退職給与引当金	0
投資有価証券	5,000,000	負債合計	13,852,303
その他の固定資産		正味財産	
什器備品	2,070,633	(うち、基本金)	31,602,693
貯蔵品	1,778,316	(うち、基本金)	(5,000,000)
退職給与引当預金	0	(うち、当期増加額)	(8,656,572)
固定資産合計	8,848,949	正味財産合計	31,602,693
資産合計	45,454,996	負債及び正味財産合計	45,454,996

平成8年3月28日退職給与引当金 1,728,943円取崩す
 退職給与積立預金 1,728,943円取崩す

【特別会計】

学 術 交 流 費			
流動資産		正味財産	
現金預金	330,017	次期繰越収支差額	330,017
		(うち当期減少額)	(123,793)
資産合計	330,017	正味財産合計	330,017
		負債及び正味財産合計	330,017
内 地 留 学 奨 学 金			
流動資産		正味財産	
現金預金	11,278	基本金	4,310,000
その他の固定資産		次期繰越収支差額	11,278
投資有価証券	4,310,000	(うち当期減少額)	(21,106)
資産合計	4,321,278	正味財産合計	4,321,278
		負債及び正味財産合計	4,321,278
研 究 奨 励 賞			
流動資産		正味財産	
現金預金	5,173,246	次期繰越収支差額	5,173,246
		(うち当期増加額)	(120,803)
資産合計	5,173,246	正味財産合計	5,173,246
		負債及び正味財産合計	5,173,246
早 川 幸 男 基 金			
流動資産		正味財産	
現金預金	3,298,889	次期繰越収支差額	14,798,889
有価証券	11,500,000	(うち当期増加額)	(2,098,519)
資産合計	14,798,889	正味財産合計	14,798,889
		負債及び正味財産合計	14,798,889

(注) 基本財産(基本金)たる資産:投資有価証券 9,310,000円
 預り金の内消費税 1,625,185円
 (うち当期消費税) 573,612円

監査の結果、収支計算書及び貸借対照表が正しいことを証明いたします。

平成8年4月24日 会計監査 前原英夫 (印) 野本憲一 (印)

社団法人 日本天文学会
 平成7年度 一般会計正味財産増減計算書
 (平成7年4月1日～平成8年3月31日)

増加の部 (単位：円)

勘定科目 大科目・中科目	決算額
増加の部	
資産増加額	
当期収支差額	7,272,578
退職引当預金増加額	213,853
貯蔵品増加額	235,794
什器備品増加額	1,339,600
負債減少額	
退職給与引当金取崩額	1,728,943
増加額合計 (F)	10,790,768
減少の部	
資産減少額	
什器備品償却額	191,400
退職給与引当預金取崩	1,728,943
負債増加額	
退職給与引当金繰入額	213,853
減少額合計 (G)	2,134,196
当期正味財産増減額 (H=F-G)	8,656,572
当期正味財産 (I)	22,946,121
期末正味財産 合計 (J=I+H)	31,602,693

社団法人 日本天文学会事業計画書

1996年度 (1996年4月1日から1997年3月31日まで)

ア) 出版物の刊行

1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)

第48巻2号～第49巻1号, 隔月刊, A4版, 発行部数1650, 年間総ページ900を予定.

2) 天文月報

第89巻4号～第90巻3号, 月刊B5版, 発行部数3200, 毎号52ページを予定. 入稿から印刷までの時間を短縮するため, DTP (Desk Top Publishing) 化を進める.

3) 講演予稿集

春季・秋季の年会の講演予稿集各1冊, 発行部数700を予定.

イ) 年会の開催

1) 秋季年会

会期: 10月
 会場: 国立天文台 水沢
 公開講演会: 2件を予定

2) 春季年会

会期: 3月
 会場: 東京大学

公開講演会: 2件を予定

ウ) IAU 総会 (日本学術会議と共同主催) 開催準備

エ) 総会, 評議員会, 理事会

1) 総会

春季年会会場にて開催予定. 秋季年会会場でも臨時総会の開催が必要.

2) 評議員会

5月中旬, 2月中旬, 春季及び秋季年会会場にて開催予定.

3) 理事会

8月下旬, 1月中旬, 春季及び秋季年会会場にて開催予定.

オ) 委員会, ワーキンググループの開催

1) 欧文研究報告編集理事会

編集長: (桜井 隆)

2) 天文月報編集理事会

編集長: (関口和寛)

3) 年会実行委員会

委員長: (田中培生)

4) 天体発見賞選考委員会

委員長: (渡部潤一)

5) 内地留学奨学生選考委員会

委員長: (理事長)

6) 研究奨励賞選考委員会

委員長: (小山勝二)

7) 早川幸男基金 (若手海外学術研究援助金) 選考委員会

委員長: (小山勝二)

8) 天文教育ワーキンググループ

幹事: (小杉健郎)

9) ビデオ教材ワーキンググループ

幹事: (戎崎俊一)

カ) 事務・管理費

1) ネットワーク整備および事務処理合理化のためのOA化に200万円を支出する予定.

キ) 特別会計

1) 内地留学

1名, 年間24万円の補助を予定. 一般会計より15万円を暫定的に借入れ, 今後の運用については今後, 議論の予定.

2) 研究奨励賞

1名 (賞金10万円) を予定.

3) 若手海外研究補助金 (早川幸男基金)

総額150万円を予定.

[付録3]

平成8年度 収支予算書
(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

【一般会計】

I] 収入の部

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
基本財産運用収入	115,000	130,000
基本財産利息収入	115,000	130,000
会費収入	33,350,000	32,000,000
特別会員会費収入	20,470,000	19,500,000
一般会費収入	15,660,000	14,500,000
学生会費収入	4,810,000	5,000,000
通常会員会費収入	12,880,000	12,500,000
事業収入	26,620,000	26,350,000
欧文研究報告発行事業収入	15,320,000	13,600,000
購読料	5,000,000	5,000,000
掲載料	6,400,000	5,500,000
別刷代	3,920,000	3,100,000
天文月報発行事業収入	6,150,000	6,750,000
購読料	950,000	1,100,000
別刷代	500,000	250,000
広告料	4,700,000	5,400,000
年会事業収入	5,150,000	6,000,000
予稿集頒布収入	1,800,000	2,000,000
参加費	3,000,000	3,200,000
雑収入	350,000	800,000
印税収入	2,900,000	2,900,000
星座早見印税収入	1,900,000	1,900,000
その他の印税収入	1,000,000	1,000,000
補助金収入	6,700,000	7,100,000
文部省刊行補助金収入	4,300,000	4,300,000
公開講演会補助金収入	2,400,000	2,800,000
寄付金収入	300,000	450,000
寄付金収入	300,000	450,000
雑収入	1,625,000	1,073,000
受取利息	125,000	23,000
特別企画収入	500,000	550,000
その他の収入	1,000,000	500,000
繰入金収入	444,247	470,033
繰入金収入	444,247	470,033
当期収入合計(A)	72,054,247	70,473,033
前期繰越収支差額	22,753,744	15,481,166
収入合計(B)	94,807,991	85,954,199

II] 支出の部

(単位：円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
事業費	50,370,000	46,850,000
欧文研究報告発行事業費	24,350,000	20,800,000
直接出版費	15,700,000	13,440,000
別刷印刷費	1,500,000	950,000
人謝件費	4,500,000	3,500,000
送料運搬費	840,000	1,100,000
消耗品費	1,600,000	1,450,000
雑費	200,000	350,000
天文月報発行事業費	17,620,000	17,850,000
直接出版費	11,000,000	12,000,000
別刷印刷費	420,000	300,000
人謝件費	800,000	1,000,000
送料運搬費	1,800,000	900,000
消耗品費	3,000,000	3,000,000
雑費	500,000	600,000
年会事業費	100,000	50,000
予稿集印刷費	8,100,000	7,900,000
謝金	3,400,000	2,500,000
送料運搬費	1,200,000	800,000
会場費	900,000	1,300,000
消耗品費	500,000	900,000
雑費	1,000,000	1,300,000
I A U 総会開催事業費	1,100,000	1,100,000
準備費	300,000	300,000
管理費	300,000	300,000
人件費	22,090,000	19,905,000
謝金	7,600,000	7,200,000
会議費	600,000	600,000
負担金	400,000	600,000
税金	120,000	120,000
公共交通課	1,200,000	1,200,000
旅送費	1,500,000	1,500,000
通信費	2,400,000	1,500,000
什器備品費	2,000,000	2,400,000
消耗品費	600,000	700,000
印刷製本費	1,600,000	1,200,000
光熱水料	120,000	120,000
賃借料	1,700,000	1,120,000
保険料	100,000	95,000
手数料	200,000	250,000
書籍購入費	500,000	500,000
特別企画費	500,000	500,000
内地留学奨学金へ繰入	200,000	150,000
雑費	750,000	750,000
特定預金支出	150,000	190,000
退職給与引当預金支出	150,000	190,000
予備費	22,197,991	19,009,199
予備費	22,197,991	19,009,199
当期支出合計(C)	94,807,991	85,954,199
当期収支差額(A-C)	△22,753,744	△15,481,166
次期繰越収支差額(B-C)	0	0

【特別会計】

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度 予算額
学術交流費	収入の部		
	賛助会員会費収入	2,000,000	2,100,000
	受取利息	2,500	2,500
	前期繰越収支差額	330,017	453,810
	収入合計	2,332,517	2,556,310
	支出の部		
	学術交流費	2,000,000	2,000,000
	予備費	3,000	3,000
	支出合計	2,003,000	2,003,000
	次期繰越収支差額	329,517	553,310
内地留学 奨学金	収入の部		
	基本財産利息収入	80,000	100,000
	一般会計より繰入	200,000	150,000
	前期繰越収支差額	11,275	32,384
	収入合計	291,275	281,384
	支出の部		
	奨学金支出	250,000	250,000
	予備費	1,600	1,600
	支出合計	251,600	251,600
	次期繰越収支差額	39,675	30,784
研究奨励賞	収入の部		
	資金収入	200,000	200,000
	受取利息	2,500	2,500
	前期繰越収支差額	5,173,246	5,052,443
	収入合計	5,375,746	5,254,943
	支出の部		
	研究奨励賞	100,000	100,000
	予備費	2,000	2,000
	支出合計	102,000	102,000
	次期繰越収支差額	5,273,746	5,152,943
早川幸男基金	収入の部		
	寄付収入	100,000	100,000
	受取利息	10,000	10,000
	前期繰越収支差額	14,798,889	12,700,370
	収入合計	14,908,889	12,810,370
	支出の部		
	研究補助	1,500,000	1,500,000
	予備費	10,000	10,000
	支出合計	1,510,000	1,510,000
	次期繰越収支差額	13,398,889	11,300,370
林 忠四郎賞	収入の部		
	寄付収入	20,000,000	0
	受取利息	300,000	0
	前期繰越収支差額	0	0
	収入合計	20,300,000	0
	支出の部		
	研究補助	500,000	0
	予備費	200,000	0
	支出合計	700,000	0
	次期繰越収支差額	19,600,000	0

日本天文学会 1996 年秋季年会の開催と
講演の申し込みについて

秋季年会は 1996 年 10 月 3 日(木)から 5 日(土)までの 3 日間、国立天文台水沢にて開催します。今回よりプログラムは月報には掲載いたしませんので、予稿集および WWW 上でご覧下さい。

【講演の申し込み】

講演の申し込みは「〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上、8 月 8 日(木)までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送りください。

非会員の方からの e-mail での予稿も受け付けます。e-mail での投稿受付は、8 月 1 日(木)より 8 月 8 日(木)とします。e-mail での予稿の書き方、送り方、およびフォーマットは tennet を通して連絡します。tennet から直接情報を入手できない方は tennet 加入者にお聞きください。さらに、WWW にも掲載します。直接学会事務局へのお問い合わせにはお答えできません。郵送と e-mail との二重の申し込みは固くお断りします。

さらに先回より郵送分といっしょにしてプログラムを WWW 上に掲載します。e-mail 投稿による予稿本体も、プログラムと同様に WWW 上に掲載しますので、支障のある方は前もってお申し出下さい。

講演は「口頭発表(講演 10 分)」, 「口頭発表(3 分) + ポスター発表」, 及び「ポスター発表」にて行いますので、希望の発表形態を選択して下さい。口頭発表(3 分)の質疑応答は数講演を一括して時間を設けて行います。また、筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2 つ目以降の講演はポスター発表とします。

Post-deadline papers も受け付けます。これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circular に掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、9 月 27 日(金)まで受け付けます。講演方法はポスター発表となります。

講演分野の分類は以下の 16 通りです。

位置天文学, 天体力学, 太陽系, 太陽, 恒星, 星形成, 星間現象, 銀河, 活動銀河核, 銀河団, 宇宙論, 地上観測機器, 飛翔体観測機器, 情報処理, 天文教育, その他

なお申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入下さい(例: 恒星(内部振動))。

講演申込み・発表に際しては特に次の事項を厳守して下さい。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。

2. 連名の場合、発表者を講演著者の筆頭におく。
3. 複数講演申し込みの場合は2講演目以降はポスター発表に限る。
4. 口頭発表においては、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターを使用すること。
5. ビデオプロジェクターの使用(口頭発表のみ可能)を希望される方は年会申込み用紙に○印をつけて下さい。
6. 郵送による申し込みの際、原稿をセロテープ、メンディングテープなどで貼りつけることはせずに、必ず糊をお使い下さい。

なお、近年、講演のキャンセルが増えています。理由のいかんにかかわらず、これ以上キャンセルが増えると、年会の運営に支障をきたしますので、慎重にお申し込み下さい。

講演申込者で年会出席旅費の補助を希望される会員は8月8日(木)までに必着するよう「国立天文台内 日本天文学会」に申し込んで下さい。ただし申込みのできる人は、1996年度会費納入済みの方で、連名の場合でも筆頭講演者であり、正式の給与を受けていない特別会員学生会費納入者に限ります。尚、旅費は年会々場にてお渡し致しますので印鑑をご持参下さい。

年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。会員外の方で講演を希望される方には、申込みの際に入会をお薦めしております。

【参加費等の支払い方法】

講演の申し込みには講演登録料が必要です。ただし、特別会員の方は1講演につき、また、今回が初めての講演申し込みである方も、通常会員、会員外を問わず、1講演につき講演登録料が免除となります。

会員種別	特別会員	特別(学生)	通常会員	会員外
年会参加費	3,000円	2,000円	3,500円	3,000円
年会講演登録料	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円
年会予稿集	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円

- 1) 年会参加費及び年会講演登録料は年会会場でお支払いください。
- 2) 年会講演登録料は1講演あたりの金額です。
- 3) 予稿集代は会員会費には含まれていません。1年分(2回分)を前納していただいている方には郵送いた

します。

【お問い合わせ】

年会中に、集会のため会議室の利用を希望される方は前もって、国立天文台水沢 亀谷収までご連絡下さい。

電子メール: kameya@gprx.miz.nao.ac.jp

電話番号: 0197-22-7153

ファックス: 0197-22-7120

【1997年春季年会について】

1997年春季年会は3月20日(木)から22日(土)までの3日間、東京大学駒場キャンパスにて開催の予定です。

(文責: 年会実行委員会 田中培生)

日本天文学会メイリングリスト TENNET が変わりました

TENNET (TENmongaku NETwork) は、日本天文学会の会員間で、情報交換や議論を行うためのメイリングリストです。

従来は、暫定的に東京大学駒場キャンパスで運用されていましたが、本年度から学会事務(三鷹)にワークステーションが導入され、インターネットに接続できるようになったため、三鷹で運用することになりました。

新しいTENNETへの参加には、再度申込が必要です。以下の案内を読んで、申込を行って下さい。

参加資格は原則的に、

1. 日本天文学会、及び関連のある学会(日本物理学会、日本惑星科学会、等)の会員
2. 天文学の研究に関連のある仕事(協力あるいは補佐)に従事する団体等で、購読が適当と認められるもの [団体として参加]

のいずれかに該当していなければなりません。参加を希望する人は、

1. 会員番号(日本天文学会以外の場合は所属学会も)
2. 氏名
3. 配送先のメールアドレス
4. 参加を希望する理由(参加資格が2.の場合)

を明記して、TENNET運用管理者

tennet-request@tenmon.or.jp

までお送りください。

登録作業は手作業のため、数日ほどかかることもあります。

鈴木知治(ネットワーク管理委員会)

編集委員	関口和寛(編集長)、末松芳法、田代 信、辻本拓司、中川貴雄、林左絵子、平野尚美、宮坂正大
平成8年7月20日	発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体680円)	発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話(0422)31-1359(事務室・月報)5488(欧文編集)5487(FAX専用)	振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ http://www.tenmon.or.jp	